

# 提案書：ボーイスカウトの魅力を表すブランドメッセージ

2026.3.15 更新

依頼主：ボーイスカウト兵庫連盟（広報担当：宮本知子）

提案者：前田優子（Pro Bono Service GRANT）

与件

依頼内容	ボーイスカウトの魅力を言語化する
課題	ピーク時には 22000 人いたスカウトが今では 5000 人を切っている。入隊する子どもが減少しているのに加え、中学進学（受験と部活）で退団する子どもが多い。
目標	1) 小学生低学年の入隊者を増やしたい 2) ボーイスカウトのブランドイメージをあげたい
成果物	PR メッセージ：キャッチコピーとリード文 (特に小学生低学年の保護者に刺さるコピーが欲しい)
期限	2025 年度末 (2026 年 3 月)

アプローチ・分析・戦略

手法	机上での情報整理と指導者や保護者、スカウトへのヒアリング
強み・機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で行動する、失敗から学ぶ、など生きる力を育てる←時代にマッチ</li> <li>学校も学年も違う子どもたちの集団活動（第 3 の居場所）</li> <li>安全に失敗できる希少な場所</li> <li>サバイバルスキルと奉仕の精神が自然と身につく←ニーズの高い防災教育に通じる</li> <li>小さな子どもからお年寄りまで、縦のラインがつながっている</li> <li>世界共通の“言語”（理念や指針、掟など）がある</li> <li>長い歴史のある青少年育成活動</li> </ul>
弱み・脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボーイスカウトの活動は一言で表せない（サッカーや水泳など、他の習い事は分かりやすい）</li> <li>「自然を売る」だけでは差別化できない（YMCA、キャンプスクール、自然学校などと区別されない恐れがある）</li> <li>「厳しそう」「親が大変そう」「よく分からない」といった負のイメージ</li> <li>説明が「自然体験」「奉仕」「青少年育成」など理念中心で抽象的すぎる←親には響かない</li> </ul>
主なペルソナと訴求ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生低学年の子どもを持つ親</li> <li>競争社会の中でタイパ・コスパなど効率優先の時代に子育てする不安を抱えている</li> <li>「安心して失敗できる環境」の中で「自分で考え行動する自立した子」を育てたいと思い、「生きる力」を身につけさせたいと願う</li> </ul>
戦略目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>本質的価値を伝え、ブランドイメージを上げる</li> <li>「体験→納得→入隊」という流れの入り口である「体験会」への参加者を増やす</li> </ol>
メッセージ戦略	崇高な理念を生活価値に翻訳し、若い親世代が抱える不安を払拭するボーイスカウトの本質的価値「 <u>「生きる力」を育てる場</u> 」を分かりやすく“見える化”する

提案

コピー1 (新規入隊訴求)	「できた！」がいっぱい ワクワク、ドキドキしながら 焚き火も、失敗も、仲間と学ぶ。 大切にしたい、ボーイスカウトの時間。
伝えたいイメージ	小さな成功体験を重ねられる場所
伝えたいポイント	特にビーバー隊・カブ隊世代のお子さんの保護者向けに、ボーイスカウトに入れば、お子さん自身が何を感じるかを表現した。自然の中で失敗を重ねながらも楽しく成長する姿をイメージしてもらえらる。
添えるビジュアル	自然を背景に、ビーバー・カブ隊員（1-3人程度）の何かを達成した時の自慢げな弾けるような笑顔のクローズアップ写真。

コピー2 (インナーブランディング)	ここでしか、できないことがある。 野山を駆け回る。 火を起し、水を汲み、寝床をつくる。 ほかでは味わえないワクワク感。 ひとつひとつ課題をクリアする達成感。 自分で考え、行動する。 間違えたら、やり直せばいい。 仲間とともに、小さな失敗を重ね成長する。 それが、ボーイスカウト。だから、ボーイスカウト。
伝えたいイメージ	様々な体験を通して成長する特別な居場所
伝えたいポイント	スカウト自身やその保護者全般に向けたコピー。自然と向き合い、さまざまな挑戦をする中で成長していくことができる「特別な居場所」であることを強調し、ボーイスカウトが提供する体験の内容と本質的な価値の両方を具体的に“見える化”した。
添えるビジュアル	野山の中で仲間と協力しながら何かに挑戦しているボーイ隊員の姿。

コピー3 (県連ブランドメッセージ)	ここから始まった、本物の体験。 明治45年、神戸。 この港町で、外国人(宣教師)*による日本初のボーイスカウトが誕生しました。 あれから110年(あまり)*。 時代が変わっても、子どもたちに大切なものは変わりません。 自然の中で、自分で考え、仲間と挑戦し、失敗から学ぶこと。 その原点が、いまも兵庫に息づいています。  日本ボーイスカウト兵庫連盟  * 場合によっては(カッコ内)を省いていただいても問題ありません。
-----------------------	--

伝えたいイメージ	原点の地に根付く <u>伝統と信頼</u> の青少年育成活動
伝えたいポイント	兵庫連盟のブランディング用コピー。周年事業の際などに兵庫連盟としての独自性をアピールし、世間一般のボーイスカウトへの認知度とイメージ向上を図るのが狙い。日本連盟の本流の「発祥」とは違い、外国人居留地のあった港町だからこそ日本初のボーイスカウトができたという「原点」の場所で、本質的価値を提供する活動だからこそ長い伝統が続いている（活動価値の「原点」が息づく）ことを理解してもらう。
添えるビジュアル	再度山、諏訪山、摩耶山などから港町神戸を見下ろす（もしくは旗振山から須磨海岸を望む）景色を背景に、スカウト隊が隊列をなしてハイキングしている姿を写した写真など。

以下、今回のコピー作成にあたって行ったヒアリングで得た貴重な“生の声”を抜粋しました。チラシなどの広報物にお役立てください。

#### 保護者の声

- 「自然の中でただ遊んで学んでいるだけかと思ったら、奥が深かった。自分たちで計画立てて実行していく、そして発表し報告する。仕事と一緒にやると、正直、驚きました。」（体験会に参加した小3生の父）
- 「これからの時代、イエスマンでは仕事はやっていけないので1人で生きていける生活能力の高い子に育ててほしい。『協調性を育む』とか『自分で考え問題解決する』とか大事やと思う。」（体験会に参加した小2生の母）
- 「自分で考えてやってみることが増えたと思う。たくさん励まされる中で『失敗していいんやぞ』と言ってもらえる。こんな環境は他にはない。」（中2生、小4生、小2生のスカウト隊員の母）
- 「ボーイスカウトは安心できる環境の中で失敗がいっぱいできる。人生うまくいくことばかりじゃないから、打たれ強くなると思う。」（中2生、小4生、小2生のスカウト隊員の母）
- 「いろいろな子どもがいてみんな違っていてデコボコしているけど楽しそう。私自身、視野が広がり、自分の子どものことを客観的に見れるようになった。」（小4生と小3生のスカウト隊員の母）

#### 若き指導者の声

- 「ボーイスカウトは失敗することが前提。ベンチャー時代、自分のせいでメンバーが遭難したことがある。でも、そこから自分の頭で考え判断し行動して、最後は全員無事帰還してリカバリーできた。それが自信につながった。ここには人生がある。」（若き指導者（27）、活動歴20年）
- 「いろんな世代の人に出会え、自分の親より自分のことをわかってくれる人がいる。子どもの頃からずっと見てきてくれていて、隊以外のことでも親身に相談に乗ってもらっている。こんなつながりができるのはボーイスカウトだけ。」（若き指導者（23）、活動歴17年）
- 「カブ時代に世界スカウトジャンボリーに参加して、世界中から集まったスカウトと交流した。言葉は通じなくても、世界共通の理念や活動指針があって、はじめましてでも仲間だと思えた。」（若き指導者（22）、活動歴15年）

- 「仲間がいて、同じ目標に向かってやるのがいい。今は事業運営や組織運営に関わっていて、目標設定・実行・評価をやっているけど、試行錯誤している時が一番楽しい。」（若き指導者（22）、活動歴15年）

#### 保護者指導者の声

- 「学校が違う子ども同士、上下の別もなく仲良く遊んでいる。少人数で自分の『できた』を積み重ねて自信をつけ、逞しくなってほしい。」（指導歴8年）

#### ベテラン指導者の声

- 「子どもたちが自分の力で解決していく姿を見守れるのが何より楽しい。成長する姿を間近で見ることができ素晴らしい経験をさせてもらっている。」（指導歴20年）
- 「子どもと接するのが楽しい、奇想天外やから。各家庭のテイストがあって色々な個性の子がいるけど、彼らの人生にところどころに関われ、お互いが育っている感じがする。」（指導歴17年）
- 「ボーイスカウトがなければ、ただの引きこもりになっていたかも。いろんなチャンスをもたらえ、そこで頑張るとちゃんと見てくれる人がいて、次に引き上げてくれる。多くの先輩に導かれ、仲間に支えられここまで来ました。」（活動歴30年以上?）

#### スカウトの声

- 「一番楽しいのはキャンプ。登山はしんどいけど、仲間と仲良くなれるし自然を楽しめるから。みんなと行動を合わせたり火をおこしたり、生きる力がつく。忙しいけど自分のためになってるからこれからも続けていきたい。」（中3生スカウト隊員）
- 「うまく説明できひんけど、ナイトハイクとか他ではできんこといっぱいあって、いろいろ学べるのがいい。スキーキャンプが一番楽しかった。」（小6生スカウト隊員）
- 「中1で5泊6日の本格的なキャンプを体験して、ボーイスカウトの本当の面白さがわかった。いろいろな達成感が味わえる。こればかりはやってみないと分からないな。」（中2生スカウト隊班長）
- 「野外で料理して自分で作って食べたら美味しくて、『やり切ったぞ』感が半端ない。訓練で計測とかの技能を身につけるのも楽しい。」（中1生スカウト隊員）